屋久島高校環境コースの変遷に関する研究

環境コース　児玉　活也

1　はじめに

屋久島高校に環境コースが設置されてから，今年度が 20 年目の節目の年度になる。このことから，設置された当初より今までの変遷を整理し，今後どのような方向へと進むのが屋久島高校にとってよいのかを明らかにするため研究をすることとした。

2　研究方法

教務関係書類を整理していたところ，「環境学科設置に関する研究（平成 10 年度)」という文書が見つかった。環境学科を設置するために，学校訪問を重ね，その情報をもとに職員で教育課程や授業内容を検討した経緯が記されていた。これをベースに当時の総合的な学習の時間である「屋久島考」も併せて変遷についてまとめることとした。

3　研究内容

環境学科設置に関する研究（平成 10 年度）より

平成５年 12 月　　屋久島「世界自然遺産」登録

平成７年度　　情報ビジネス科設置

平成 10 年度～11 年度　　環境教育研究委員会による「環境学科設置に関する研究」

研究の視点

(1)安定した定員確保がなされるか。

①平成 15 年度から児童生徒数の減少傾向があるので増学科は望めない。

②環境学科は産業基盤が希薄であるので，入学促進が図りにくい。

③尾瀬高校の視察等を踏まえ,地元よりも学区外･県外の生徒が増える可能性がある。

④県立高校が一島一校であることより地元の児童生徒のための教育空間でありたい。

(2)教育内容をどうするか。

①就職･進学いずれにも対応できる教育課程の編成が必要である。

②自然科学環境教育に特化する。(生活科学環境教育・地球科学環境教育は総合的学習の「屋久島考」(※１）のなかで取り扱う。

③指導者の確保が困難である。

(3)将来の進路先はどうなるか。

①尾瀬高校の現状より

・環境学科を生かした大学入学は難しい。

・環境学科ならではの就職はない。

・普通科目の実力不足は否めない。

②環境に関する専門職の基盤ができていない。

(4)本校の発展につながるか。

①本校への評価が高くなっており，生徒の定員確保は安定している。

②地域の要請は確固としたものが見えない。

③学科再編をすることにより，むしろ，弱体化を招く恐れがある。

研究についての結論

総合的に見通しが立たないので，見合わせる。ただし，環境教育の必要性と屋久島世界自然遺産という地域の特殊性から，普通科の中に環境コースを設ける。したがって，普通科を選択制による文系コース・理系コース・環境コースとする。ただし，1 年生は普通科の自然学級，２年生からコース制とする（理系内に設置）。

環境コースの変遷

平成 12 年度入学生より環境コース開始

平成 13 年度　環境コース設置・第３回自然環境サミット（屋久島開催）

平成 13 年度～19 年度　環境に関する科目 10 単位

平成 20 年度　教育課程の見直し（進学できるように環境に関する科目を減らし，普通教科「化学Ⅰ（2 単位）」を増やした。結果，環境に関する科目８単位）

全国高校生自然環境サミットへの不参加

平成 24 年度　学習指導要領改訂にともなう単位変更

（理科３単位増，結果，環境に関する科目５単位）

平成 25 年度　化学基礎３→２単位へ減，結果，環境に関する科目６単位

令和元年度　　第 20 回全国高校生自然環境サミット再参加

令和２年度　　第 21 回全国高校生自然環境サミット屋久島オンライン開催

環境コースの現状

前述の環境学科設置に関する研究に照らし合わせて考察する。

(1)安定した定員確保がなされるか。

①児童生徒数の減少傾向があるのは現在も変わらないが，島外からの入学希望の生徒もいるので生徒確保は可能である。

②現在は環境に関する関心も高まっているので問題はない。

③④島外生が増えるとはいえ，現状では最大で 10 人程度と考えられる。地元の児童生徒のための教育空間であることは可能である。

(2)教育内容をどうするか。

①上記の通り，平成 20 年度の頃に進学に対応できる教育課程への編成なされ環境に関する科目が減ることで特徴が見えにくくなっていた。環境総合と屋久島ゼミナールの内容を充実させ，学習や研究に時間を当てるようにすることで，学科の特徴（プレゼンテーション能力やインタープリテーション能力の育成）を出せるようになっ

てきた。

②現在は自然科学環境教育だけでなく，生活科学環境教育・地球科学環境教育をすべて学習する内容になっている。総合的な探究の時間も活用して研究を進めることができるようにしているが時間が足りない。

③指導者としては，環境文化研修センターや屋久島学ソサエティ（屋久島の学会）や屋久島自然保護官事務所等の協力をいただくことができているので問題はない。

(3)将来の進路先はどうなるか。

①・大学や専門学校等の環境に関する学科も多くなってきている。

・絶対的に環境に関する学科へ進学する必要はなく，他学科への進学も可能。

②環境に関する専門職の基盤は，現在はできている。（ガイド職，自然保護官など）

(4)本校の発展につながるか。

①現在も本校への評価が高くなっており，生徒の定員確保は安定している。

②学科を設置することで，１年からの学習が可能になる。１年の２学期からは研究を始めることができ，その第一研究をもって２年２学期以降に理科研究発表等に参加することが可能になる。発表を受けて第二研究を３年次に進め，論文作成にも時間をしっかりかけることできるようになり，研究まとめを受けて３年は就職・進学に実績を生かすことができる。また，１年次より３～４単位設置できれば無理なく，以前のような９～10 単位を確保することができる。

※１　屋久島考（平成 13 年度「総合的な学習の時間」の取組）

１　目標

「世界自然遺産」の屋久島という地域性を踏まえ，そこに生きる人間として屋久島を総合的な観点に立って，自ら課題を発見し，自ら学習し，自ら思考し，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を養うとともに，自己の在り方や生き方を考える。

２　学習の形態

年間の授業時数の中で，全校生徒合同学習・学年単位学習・学級単位学習・教科単位学習の形態を計画的に実施する。

３　指導者

全教科の教諭および外部講師

４　学習内容

屋久島の歴史，自然と環境，生活，経済，社会，政治を各教科の発展学習と結びつけて学習する。

・年度当初の流れ

４月当初　ガイダンスを各クラスで行う。

５月　　人数調整（各学年３つの講座担当者で）教室割は総合的学習研究委員会にて

・評価について

学習記録簿をつけさせて，担当者で確認する。

・課題点

調べ学習が主体となるので，図書館の利用の問題，教材購入の問題，講座ごとの予算の調整，学校外施設への訪問の際の時間的制約などが問題となる。

「屋久島考」のテーマ

１年	屋久島の歴史	古代　中世　近世　近代　現代
	屋久島の自然と環境	地形・気候　動物　植物　山岳　環境測定　環境保護
	屋久島の生活	集落・家族制度・共同事業　生業　衣・食・住　生き方
２年	屋久島の産業Ⅰ	農林漁業概況　農業　林業　漁業
	屋久島の社会	福祉　保健衛生　自然保護　災害　職場体験学習
	屋久島の文化Ⅰ	年中行事　行事の復活・継承　方言　民話・民謡
３年	屋久島の政治	行政　財政　議会　選挙　司法・保安
	屋久島の産業Ⅱ	商工業　交通と観光　産業基盤
	屋久島の文化Ⅱ	国際交流　文化・文化財　教育　体育

４　おわりに

環境コースができてから 20 年目の節目に，変遷を整理することができた。このことを通して，環境コースを環境学科として設置したほうが，メリットが大きいように感じた。20 数年前に環境学科設置をめざして奮闘された記録を読みながら，今だからこそ機が熟し可能になったように思う。また，これまでの多くの先生方が環境コースに携わられ，大事に活動してこられたからこそ今の形が作り上げることができてきているのだという感謝の意を最後に記しておきたいと思う。

５　参考図書

環境学科設置に関する研究（平成 10 年度）

屋久島考（総合的な学習の時間の取組）